

留学だより Vol. 7

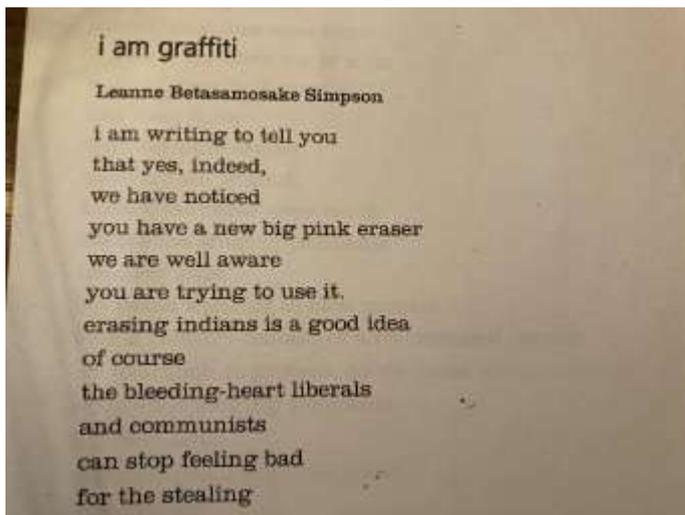
こんにちは。7回目の留学だよりになります。日本はすっかり入学・進級の時期ですね。こちらは先月までの寒かった天气が嘘のように暖かくなり、長袖でも外を歩くと少し汗ばむほどです。今回は、だいぶ時間が経ちましたが、私が今学期に学校で受けている授業について書いていきます。文章が多めですが楽しんでいただければ幸いです。

1. 履修している教科

第3号でも書いた通り一般的にカナダの学校では、自分の興味や進路に応じて授業を選択します。先日のグローバルカフェで、授業で使っているプリントや等が見たいという声があったので少し掲載します。

・ EFP Literary studies and new media

なんだか難しそうな教科名ですが「英語」の授業です。EFPとは English First People つまりカナダの先住民の人たちの事です。カナダには、先住民族の人たちの使用する言語や信仰する宗教を同化政策によって本人の意思と関係なく制限していたという歴史があります。その過ちを繰り返さないように、また先住民の文化を次世代に継承するためにBC州では先住民に関する授業が必修になったそうです。授業は、先住民の人が書いた文章や詩、歌詞などを分析したり自分の意見を述べたりすることが多いです。特に歌詞や詩は文章に使われる英語とは違うので未だに難しいですがその分興味深いです。



左の画像は先住民の方が書いた詩の一部ですこの詩を読んだ後に自分たちも自分自身のルーツに基づいて詩を書く、という課題が今までのどのレポートより難しかったです。

・ Genocide studies

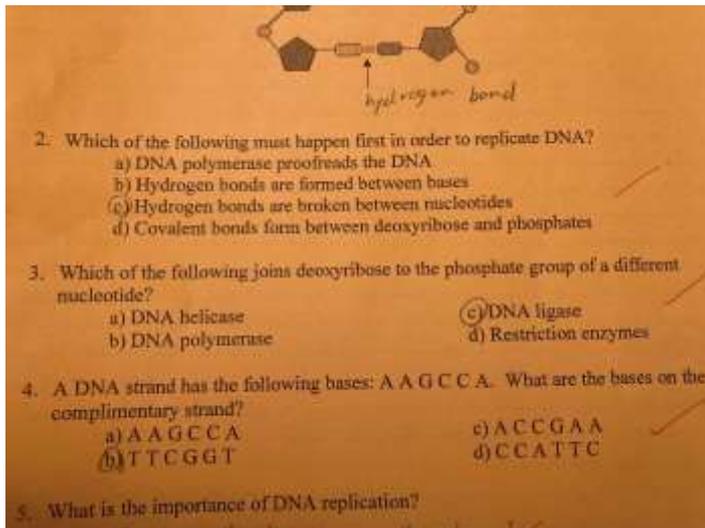
名前の通り歴史の中のジェノサイド(集団虐殺)に焦点を当てた授業です。授業では、ジェノサイドがどのような経緯で起こったか基本的なことを学習した後に当時その国で発行されていた新聞を読んで、戦況とマスメディアの報道を比較したり、ドキュメンタリーやジェノサイドをもとに製作された映画を鑑賞したりします。生徒は私を含め様々な国で生まれ育ち、教育を受けてきたので、ひとつの出来事に対して異なる見解を持っていることも普通にあるのが難しいところです。おそらく、授業をする側も難しいと思います。先生は、私たち生徒が異なる文化的背景を持っているから、互いに敬意を持ち授業を受ける態度も気を付けるようにといつも私たちに伝えていきます。内容がとても重いので、決して幸せな気持ちになる授業ではないですが、海外の高校でこのような機会があるのはとても貴重なことではないかと思います。

・ Philosophy

哲学の授業です。小石川でいうと「公共」の授業の要素が強いように思います。主に今までやったこととしては、プラトンやソクラテスなどの主要な哲学者たちの提唱したことを学び、自分の見解を述べたり、先生の出したお題に対して作文を書いたりしました。授業内でやるのが、かなり先生の裁量に委ねられているので隣の学校とやっていることは違うようですが、私はこの授業をかなり気に入っています。しかし、哲学の資料は書かれたのが紀元前というのがザラなので、使われている英語があまりにも古く、難しかったり、作文のテーマが日本語でも考えることがあまりないようなテーマであったりするので、「人が善行をするのは良心からなのか、見返りを求めてなのか」や「人々が死を恐れる傾向にあるのはなぜか」など）今でもなかなか難しいです。

・ Anatomy and Physiology

解剖学、となっていますが内容は「生物」の授業です。今までは細胞の構造、DNAの構造や複製などについて勉強しました。「化学」の要素も少し絡んでくるので先学期、勉強したことが役立っている気がします。とは言え、授業が進むたびに新しい単語がたくさん出てくるので他の教科とは違った難しさがあります。また、先生がかなりの頻繁に小テストを行うので、いつもかなりのプレッシャーを感じながら授業を受けています(笑)。先生がとても面白く、授業もわかりやすいので、助かっています。教室には先生が校庭で捕まえた(小石川の生物室を彷彿とさせる)ヘビが飼われています。かなりの頻度で実験があります。先日は、自分の細胞からDNAを取り出す実験をしました。



DNAに関する小テストです。こちらではチェックマークが正解という意味です。

今学期は先学期とは異なり、資料を読み、自分の意見を表現することが求められる教科を多く履修しています。先学期は、授業の中で新たに学んだこともありましたが、理科や数学など最終的に答えが出せればよい教科が多かったので、今学期はまた違う難しさを感じています。

2. 驚いたこと

日本とカナダの生活の違いや驚いたことを紹介します。

① ポストがない

カナダには日本のように1家庭に備え付けられたポストはないです。では、どうするのかというと、約40家庭につき一か所メールボックスがあり、そこに手紙を取りに行きます。大きい荷物場合は自分の箱に大きい荷物用の鍵が入っています。私の家のメールボックスは家の目の前なのでとても楽です。



② 呼び鈴もない

全くないというわけではないですが、家が新しいか古いかに関わらず、呼び鈴がない家が多いです。ハロウィンを含め数十件の家を訪ねましたが、呼び鈴があったのは数件でした。となると、訪問するときはロックされてからドアを開けることになるのですが、カメラ付きのインターホンに慣れている私は安全面に若干の不安を覚えます。

③ 花粉症はある

留学前、無意識のうちにバンクーバー近辺に行けば花粉はひどくないだろうと思っていたのですが、こちらにも花粉はあるようです。しかも調べたところハンノキやヘーゼルナッツなど日本であまり飛んでいないタイプの花粉なので未知の花粉症に苦しんでいます。薬を持っていてよかったです。



左のようにこの所毎日花粉がよく飛んでいます。

余談ですが、最近、(といっても2か月近く前ですが)北米に留学中の4人で「留学だより生中継編」をしたり、私が所属している次世代リーダー育成道場の中間プログラムでBC州に留学している生徒がオンラインで集まったりと自分の留學生活について振り返る機会が多くありました。

勿論、たくさん苦勞することは覚悟の上で留學することを決めたわけですが、實際それを凌駕するほど色々なことがあって、最初の数ヶ月は大変でした。(今では全て良い思い出です(笑。))しかしそれを乗り越えた経験は、今後自分の人生の中で財産になると思いますし、自分自身9月以前よりも色々な意味で強くなれた気がします。今となっては大変なこともあったけれど、留學できてよかったですと心から思います。残り100日を切りました。こちらで学べることをできるだけ多く吸収して帰国しようと思います。

今回の留學だよりは以上になります。真面目な話が多かったかと思いますが、楽しんでいただけたら幸いです。その分、来月は春休みにあったことを中心に書けたらいいかなと思います。ここまで読んでくださりありがとうございます。ではまた。